9/12 福朝

## 原発処理水

# 海洋放出反対を強調

## 経産相説明に福島県漁連

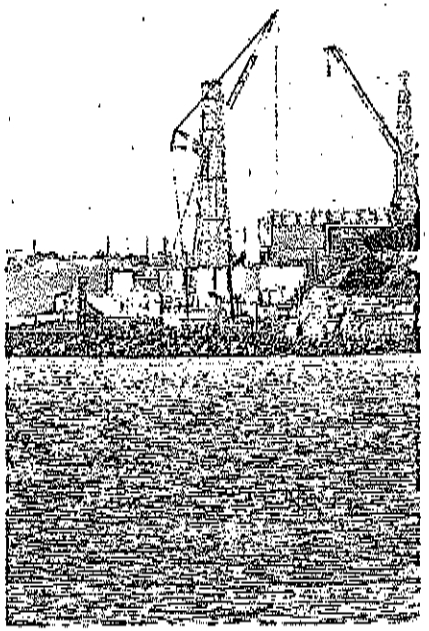
西村康稔経済産業相は11日、福島県漁業協同組合連合会(県漁連、福島県いわき市)を訪れ、東京電力福島第1原発の処理水の海洋放出計画を検証した国際原子力機関(IAEA)の包括報告書を説明し、海洋放出に理解を求めた。県漁連の野崎哲会長は終了後に「漁業者として海で操業する観点と、関係者の合意なしには海洋放出しないと約束した点から、容認する立ち位置には立てない」と放出反対を強調した。【4面に関連記事】

政府と東電は2015年、県漁連に「関係者の理解なしには(処理水の)いかなる処分もしない」と約束。放出設備は既に完成しており、政府が目指す「夏ごろ」放出を開始するには、地元漁業者の理解をどうやって得るかが最大の焦点だ。

西村氏は冒頭に「IAEAの包括報告書や原子力規制委員会の使用前検査を通じ、放出前の安全性が確認された」と説明。「廃炉と福島の復興を進めるためには、処理水の処分は避けて通れない課題だ」として理解を求めた。野崎氏は「われわれは基本的に処理水の海洋放出には反対の立ち位置だ」と述べた。

出席した漁業関係者によると、説明に理解を示す声もあり「(人体に)影響がなく、理解も得て放出するなら仕方がない」との意見も出た。処理水を保管するタンクの状況や、廃炉作業への不安の声も上がったという。

終了後、野崎氏は「廃炉作業が完全に終わった際に、漁業者がそのまま福島で漁業を存続できている。そうした状況になれば、理解できたという立ち位置に立てる」と表明。西村氏は「漁業者は関係者だ。信頼が深まるよう丁寧に説明したい」とした上で説明を継続する考えを示した。



東京電力福島第1原発＝11日午前(福島県浪江町から撮影)